

NTT東、成田空港で空席検知の実験 VBのバカンと

2018年2月1日 23:00 [有料会員限定]

■NTT東日本 成田国際空港のフードコートや待合スペースなどで空席状況を電子看板（デジタルサイネージ）やスマートフォン（スマホ）に表示する実験を2月中旬に始める。カメラの画像やセンサーで収集した情報を分析して空席があるかを把握しリアルタイムに画面に表示する。旅行者らの利便性が向上するだけでなく、店舗の集客にも効果があるとみられる。

店内の混雑状況を把握する技術を持つベンチャー企業のバカン（東京・千代田）と組み、3月まで実験を実施する。カメラやセンサーで収集した情報を同社のサーバーに送信した後、人工知能（AI）で分析する。分析結果はNTT東のデジタルサイネージで表示するほか、目的の施設の場所を対話ロボットが音声で案内する機能も用意する。他の商業施設への展開も検討する。

NTT東は外部のベンチャー企業と連携し、新規事業をつくる取り組みを進めている。バカンとの実験は取り組みの中で考案された。

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

NIKKEI No reproduction without permission.